

国内株式市場の現状と今後の見通し

2015年4月17日

日経平均株価は、4月10日の取引時間中に20006円の高値を付け、2000年4月以来、およそ15年ぶりに2万円台を一時回復しました(図1)。しかしその後は、高値圏でもみ合う動きとなっています。

また、年初来の業種別株価騰落率をみると、その他製品や医薬品などの株価上昇が目立っており、過去の上昇局面とはやや異なる動きがみられます(図2)。

国内株式市場が上昇基調を維持している背景及び今後の見通しについて、弊社では以下のように考えています。

【株価上昇の背景】

①日本企業の業績拡大に対する期待感

昨年半ば以降の原油価格の大幅な下落を受けて、企業の交易条件が改善しているとみられます。また、企業の賃上げや雇用の拡大を受けて国内の消費回復が見込まれるなど、企業を取り巻く経営環境の改善から、業績拡大への投資家の期待感が高まりつつあることが挙げられます。

②株主重視の経営を表明する企業の増加

企業が株主や投資家に情報を提供していく活動であるIR(Investor Relations)に積極的ではなかった大手工作機械メーカーが、株主との対話窓口を新設するとの報道を受けて株価が上昇しました。日本におけるコーポレートガバナンスに変化が生じているとの見方から、増配や自社株買いの増加を期待した投資家の買いが相場の支援材料になっていると考えられます。

③外部環境の落ち着き

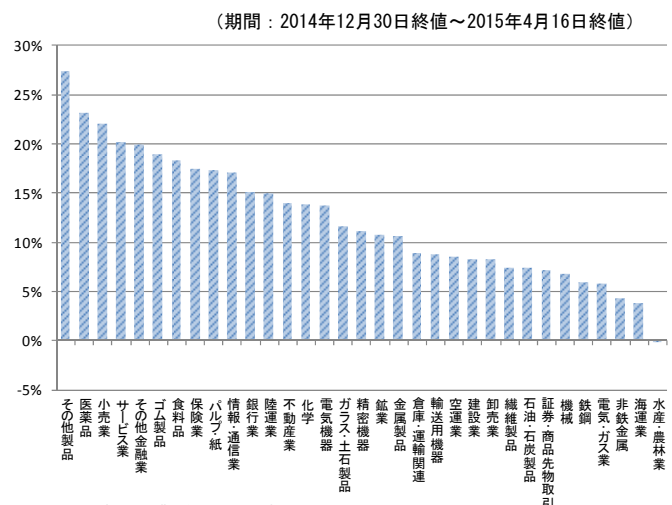
4月に入って発表された米国の3月の雇用統計などを受けて、米連邦準備制度理事会(FRB)による早期利上げ観測がやや後退しています。これを受けて、新興国を含む世界の株式市場が堅調に推移しており、国内株式市場でも投資家の買い安心感が強まっているとみられます。

(図1) 日経平均株価の推移(月次)



(出所) Bloombergから岡三アセットマネジメント作成

(図2) 業種別株価騰落率(年初来)



※東証33業種による分類

(出所) Bloombergから岡三アセットマネジメント作成

＜本資料に関してご留意いただきたい事項＞

■本資料は、投資環境に関する情報提供を目的として岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、特定のファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものではありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みにあたっては、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡しますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。

【今後の見通し】

4月中旬以降に発表が予定されている2015年3月期の企業業績の発表では、2015年度について、企業が慎重な業績見通しを発表することが予想されます。これを受けて、株価は一時的に調整する可能性があります。その後は再び上値を試す動きになると考えます。主な理由は以下の2点です。

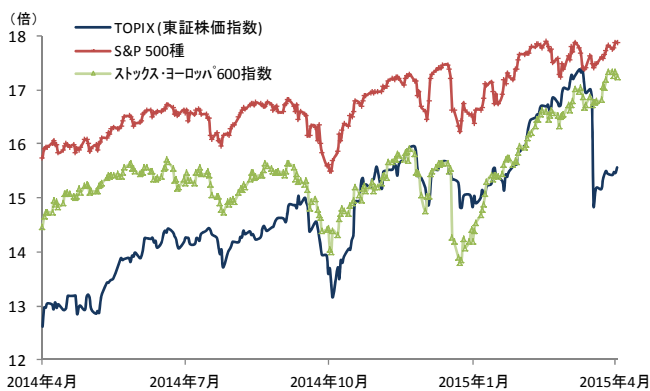
第1に、足元の株価上昇にもかかわらず、株価に割高感がないことが挙げられます。東証1部上場企業の予想株価収益率(PER)は15.5倍程度となっており、欧米各国の水準と比較して株価の水準訂正余地があるものと考えます(図3)。

第2に、株式需給の引き締まりが挙げられます。日銀による上場投資信託(ETF)の買いが継続すると見込まれることに加え、年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)などの買いも予想される一方、上場企業の公募増資による資金調達動きが限定的となっていることは、需給面から相場の支援材料になると考えます(図4)。

以上

(図3) 予想株価収益率(PER)の推移

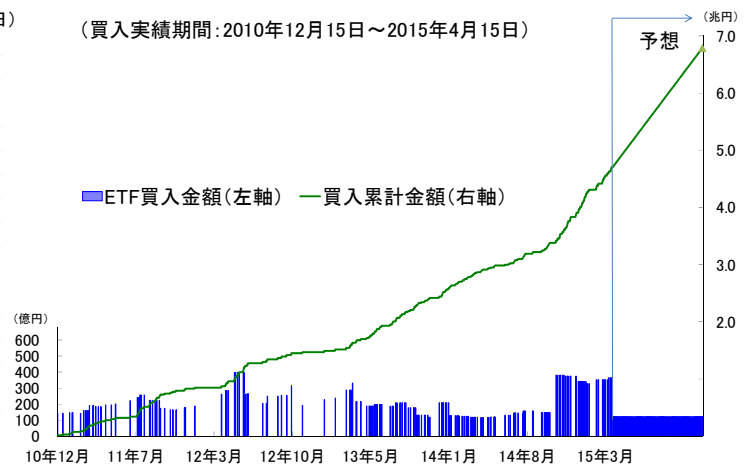
(期間：2014年4月15日～2015年4月15日)



※Bloomberg予想(出所) Bloombergから岡三アセットマネジメント作成

(図4) 日銀によるETFの買入れ額

(買入実績期間：2010年12月15日～2015年4月15日)



※ETF買入金額は、2015年4月15日までは日々の実績。以降、2015年末までは、年間3兆円の買入目標を前提に、残存営業日数で按分して算出した推計値

(出所) 日銀発表資料から岡三アセットマネジメント作成

(作成：投資情報部)

<本資料に関してご留意いただきたい事項>

■本資料は、投資環境に関する情報提供を目的として岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、特定のファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものではありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みに当たっては、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。

皆様の投資判断に関する留意事項

【投資信託のリスク】

投資信託は、株式や公社債など値動きのある証券等(外貨建資産に投資する場合は為替リスクがあります。)に投資しますので、基準価額は変動します。従って、投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

投資信託は預貯金と異なります。投資信託財産に生じた損益は、すべて投資者の皆様へ帰属します。

【留意事項】

- 投資信託のお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリングオフ)の適用はありません。
- 投資信託は預金商品や保険商品ではなく、預金保険、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関が取扱う投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。
- 投資信託の収益分配は、各ファンドの分配方針に基づいて行われますが、必ず分配を行うものではなく、また、分配金の金額も確定したものではありません。分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合があるため、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。また、投資者の購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。

【お客様にご負担いただく費用】

- お客様が購入時に直接的に負担する費用
購入時手数料: 購入価額×購入口数×上限3.78%(税抜3.5%)
- お客様が換金時に直接的に負担する費用
換金時手数料: 公社債投信 1万口当たり上限108円(税抜100円)
 その他の投資信託にはありません
信託財産留保額: 換金時に適用される基準価額×0.3%以内
- お客様が信託財産で間接的に負担する費用
運用管理費用(信託報酬)の実質的な負担
 : 純資産総額×実質上限年率2.052%(税抜1.90%)
 ※実質的な負担とは、ファンドの投資対象が投資信託証券の場合、その投資信託証券の信託報酬を含めた報酬のことをいいます。なお、実質的な運用管理費用(信託報酬)は目安であり、投資信託証券の実際の組入比率により変動します。
- その他費用・手数料
監査費用: 純資産総額×上限年率0.01296%(税抜0.012%)
 ※上記監査費用の他に、有価証券等の売買に係る売買委託手数料、投資信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、海外における資産の保管等に要する費用、受託会社の立替えた立替金の利息、借入金の利息等を投資信託財産から間接的にご負担いただく場合があります。
 (監査費用を除くその他費用・手数料は、運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことはできません。)
- お客様にご負担いただく費用につきましては、運用状況等により変動する費用があることから、事前に合計金額若しくはその上限額又はこれらの計算方法を示すことはできません。

【岡三アセットマネジメント】

商 号 : 岡三アセットマネジメント株式会社
 事業内容 : 投資運用業、投資助言・代理業及び第二種金融商品取引業
 登録 : 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第370号
 加入協会 : 一般社団法人 投資信託協会 / 一般社団法人 日本投資顧問業協会

上記のリスクや費用につきましては、一般的な投資信託を想定しております。各費用項目の料率は、委託会社である岡三アセットマネジメント株式会社が運用するすべての公募投資信託のうち、最高の料率を記載しております。投資信託のリスクや費用は、個別の投資信託により異なりますので、ご投資をされる際には、事前に、個別の投資信託の「投資信託説明書(交付目論見書)」の【投資リスク、手続・手数料等】をご確認ください。

この資料は情報提供を目的として作成したものであり、特定の商品の投資勧誘を目的として作成したものではありません。投資判断の最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

金融商品取引法に基づきお客様にご留意いただきたい事項を以下に記載させていただきます。

むさし証券の概要

商号等：むさし証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第105号

加入協会：日本証券業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会

リスクについて

国内外の金融商品取引所に上場されている有価証券(上場有価証券等)の売買等に当たっては、株式相場、金利水準等の変動や、投資信託、投資証券、受益証券発行信託の受益証券等の裏付けとなっている株式、債券、投資信託、不動産、商品等(裏付け資産)の価格や評価額の変動に伴い、上場有価証券等の価格等が変動することによって損失が生じるおそれがあります。

◎ 上場有価証券等の発行者等の業務や財産の状況等に変化が生じた場合や、裏付け資産の発行者等の業務や財産の状況等に変化が生じた場合、上場有価証券等の価格が変動することによって損失が生じるおそれがあります。

◎ 新株予約権、取得請求権等が付された上場有価証券等については、これらの権利を行使できる期間に制限がありますのでご注意ください。

◎ 上場有価証券等が外国証券である場合、為替相場(円貨と外貨の交換比率)が変化することにより、為替相場が円高になる過程では外国証券を円貨換算した価値は下落し、逆に円安になる過程では外国証券を円貨換算した価値は上昇することになります。したがって、為替相場の状況によっては為替差損が生じるおそれがあります。

※ 裏付け資産が、投資信託、投資証券、預託証券、受益証券発行信託の受益証券等である場合には、その最終的な裏付け資産を含みます。

※ 新規公開株式、新規公開の投資証券及び非上場債券等についても、上記と同様のリスクがあります。

手数料等諸費用について

当社取り扱いの商品等にご投資いただく場合

各商品毎の所定の手数料をご負担いただく場合がありますが、商品毎に異なるため、ここでは表示することができません。

また、各商品等には価格の変動等による損失を生じるおそれがあります。

投資信託につきましては、手数料の他、信託報酬等・その他の費用(監査費用、運営・管理費用等)等を御負担いただきますが、これらの費用等は、事前に計算できませんので表示しておりません。

当該商品等の契約締結前交付書面や目論見書またはお客さま向け資料等をよくお読みください。

【広告審査済】